

# 富士山ハザードマップを作成した目的

■小山町域は、宝永4年（1707）の富士山大噴火の際に、噴石、火山灰による大きな被害（1〜3mの降灰）を受けました。その後長く復興への苦難は、今に語り継がれています。このマップはそうした過去を身近に感じている町民の皆さんに、富士山の火山活動をよく理解していただくために作成しました。

■富士山は、いまから300年前に噴火した後、現在まで静かな状態が続いています。しかし、地下深くでは今もマグマが活動している活火山です。そのため万が一噴火しそうになったり噴火が始まったりした時に備えて、皆さんが自らの安全を確保するためにどのような知識を学び、どのような行動をすればよいかわかるように、このマップを役立ててください。

■なお、富士山がすぐに噴火が起こるような兆候は、現時点（平成16年）においてありません。

■このマップは一定の条件に基づいて推定された影響範囲や被害の程度を示したものであり、実際に噴火した場合はこのマップに示された内容と異なる部分が出てくる場合もあります。

■富士山では過去さまざまな規模や種類の噴火が起きており、噴火の場所も山頂だけに限らず山腹にも数多くの火口が分布しています。このような富士山の噴火の特徴をこのマップから学び、どのような現象がどこまでやってくるのかを十分理解した上で、的確な防災行動がとれるように心がけてください。

# 富士山のめぐみ

世界に知られ、日本のシンボルである富士山。人々は、富士山から有形、無形の様々な恵みを受けています。富士山頂を町域とする小山町に暮らす私たちは、富士山が活火山であっても、その火山災害の被害を最小限にとどめ、富士山と共生できることを誇りにしたい。

## 美しい富士山にあこがれて

富士山は、太古よりその崇高な美しさにより、信仰の対象として崇められてきました。江戸時代には、富士講の信者が数多く参詣のために登山しています。また、山麓は野鳥の宝庫で、昭和9年6月、日本で初めての探鳥会（日本野鳥の会）が須走の地で催されています。現在、富士の姿にあこがれて海外からも多くの人々が訪れています。須走登山口では、春、夏、秋、冬それぞれの季節に多くの観光客が富士山の豊かな自然を満喫しています。また、多くの事業所が町内に進出しているのも、富士山の存在を否定できません。そして、何よりも私たちの心のよりどころとして存在する、かけがえのない富士山です。

## 豊富な湧き水が暮らしを豊かに

富士山の麓には数多くの場所で豊富でしかも清冽な水が湧き出ています。私たちは、その水の恵みを得て、飲料水、農業用水、工業用水として、米作りや、山菜、水菜の栽培、飲料製品などに利用しています。安心しておいしい水が飲める、これこそ富士山からの恵みといえます。



# 災害の発生可能性マップ

火口ができる可能性の高い範囲（この範囲のすべてでなくどこかに火口ができます。）

噴火しそうなる時、噴火が始まった時すぐに避難が必要な範囲を示しています。（噴火した場合に、下の3つのどれかに当てはまり、すぐに危険になる範囲です。）

- 火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲
- 火口から噴出した石がたふさく落ちてくる範囲（この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。）
- 溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）

溶岩流（ようがんりゅう）溶岩が流れ始めた場合に、すぐ到達するかもしれない範囲（3時間程度を想定）



高熱の溶岩が斜面を流れ、家や道路を埋め近隣の木々を燃やします。流れの速さは人が歩く程度なので、余裕を持って逃げることが出来ます。

すぐ危険にはなりませんが、火口位置によっては避難が必要な範囲です。公的機関から出される避難情報に注意して下さい。また、避難に時間のかかる人（お年寄りや入院患者等）は早めに避難して下さい。（溶岩が流れ続けた場合に、1日くらいで到達するかもしれない範囲を示しています。）

すぐに危険になるわけではありませんが、たいへん大きな噴火の場合に避難が必要になることが想定される範囲です。公的機関から出される情報に注意して下さい。（溶岩が流れ続け、数日間以上（最大40日間程度）で流れ下る範囲を示しています。）

この図は仮に富士山が噴火した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと想定される範囲を示したものです。全ての方向に同時に発生することを意味するものではありません。また、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性もあります。

この地図は、平成16年6月時点において、富士山ハザードマップ検討委員会より報告された結果をもとに作成されたものです。

## 噴石（ふんせき）

火口から噴出した石がたふさく落ちてくる範囲（この範囲外にも、まれに、10cm未満の小石などが飛ばされることもあります。）

噴火時に火口から放り飛ばされる直径数cm以上の岩の破片や軽石を噴石といいます。大きな噴石が当たると、家は壊れ、けがをしたり死ぬこともあります。とくに火口から半径2km以内は噴石がたふさく落ちてくるので危険です。1707年の宝永噴火では、上空の強い西風に乗り、火口から10kmほど離れた場所でも20cm程度の軽石が飛んできました。さらに20km離れたところでも数cmの軽石が飛んできました。とくに風下では、マップに着色されていない範囲でも噴石に注意して下さい。降灰や噴石が多い時は丈夫な建物内にいましょう。やむを得ず外出する場合にはヘルメットを着用して十分注意して行動しましょう。



## 火砕流（かさいりゅう）

火砕流が発生したときに、高熱のガスが高速で届く範囲



高温の岩石・火山灰・火山ガスの混合物が斜面を高速で流れ下り、巻き込まれると死亡する場合があります。自動車より速く流れるので、早めに避難する必要があります。

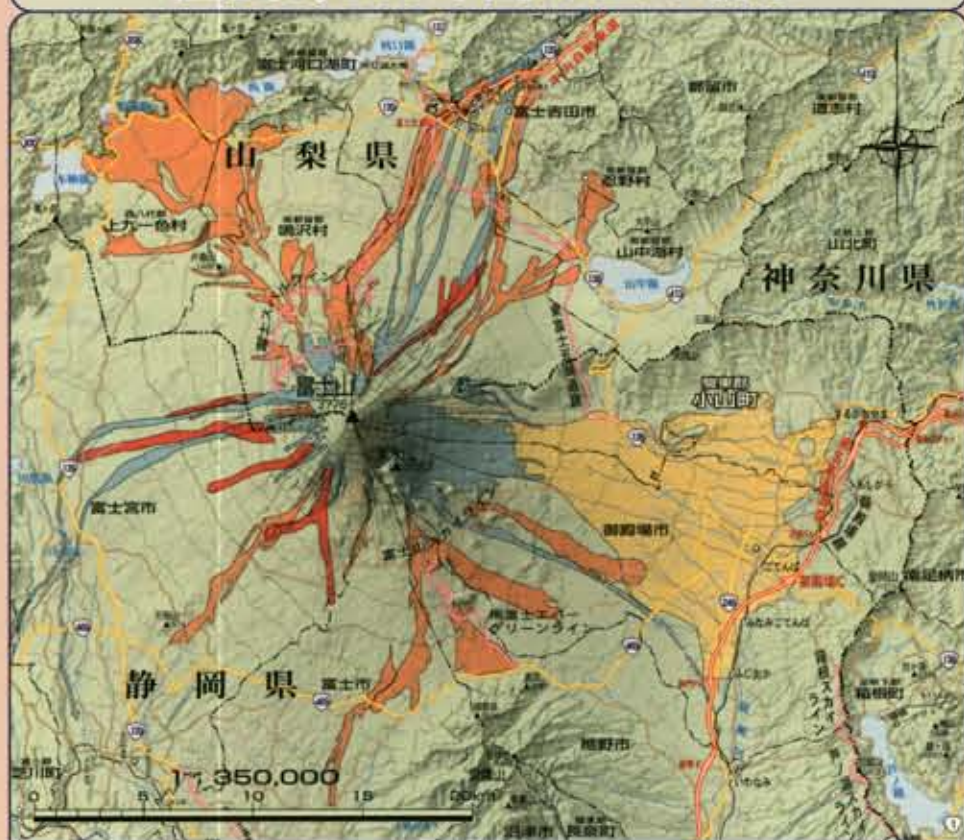
## 融雪型火山泥流（ゆうせつがた火山泥流）

雪が積もっている時に噴火しそうになった場合に、沢や川には近寄らないようにする必要があります。（積もった雪が火砕流により溶かされた場合、発生した泥流が沢や川沿いであふれるおそれのある範囲を示しています。）



雪が積もっている季節に噴火が始まると、火砕流などの高温の岩が雪が解けて、斜面の土砂を取り込んで高速で流れ下ります。おもに谷底など低いところを流れますが、あふれて広がることもあります。山頂付近から一気に流れ下るので早めの避難が必要です。

## 過去3,200年間の主な現象



写真提供：目的、めぐみ、山本正行、溶岩流、白尾元理、火砕流、（株）ナガサキ・フォト・サービス、融雪型火山泥流、AFP、時事通信社、噴石、（財）砂防・地すべり技術センター

## どのような現象が起こる!? どのような注意が必要!?

### 溶岩流

溶岩流は、一般的に速度が遅く徒歩でも逃げることが出来ます。落ちてくると、到達範囲の外に避難してください。



### 火砕流・火砕サージ

火砕流・火砕サージは、高速（時速100キロメートル以上）で流れ下るため発生してから避難は困難です。噴火の危険性が高い状況になったら、火山情報などに十分注意して速やかに到達範囲の外に避難してください。火山に関する情報が出たら入山しないでください。

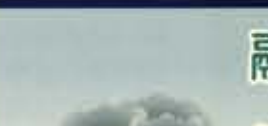


### 火山情報発表

入山しない

### 降灰

細かく砕けたマグマが空高く吹き上げられ、直に落ちてくると、呼吸が困難になります。火口の近くでは厚く積もり、遠くには軽くなります。火口の近くでは厚く積もり、遠くには軽くなります。火口の近くでは厚く積もり、遠くには軽くなります。火口の近くでは厚く積もり、遠くには軽くなります。



### 噴石

噴石の多くは、火口から2キロメートル以内で落下します。しかし、小石は広範囲に飛ぶ可能性があるため、富士山に近づかないようにしましょう。



### 火山ガス（かざんがす）

火山ガスはマグマに溶け込んでいたガス成分が気体となって噴き出すもので、二酸化炭素などの有毒成分を含むことがあります。火口などのガスが出ている周辺や崖下のガスがたまりやすいと思われる場所には近づかないなどの注意が必要です。

岩屑なだれ（がんせつなだれ）山の一部が崩れて大きなかたまりとなって雪崩のように高速で流れ下ります。約2500年前に富士山東側の御殿場方面に崩れたことや、さらに昔にも複数回あった可能性のあることがわかっています。広域に被害が及ぶので、危険性が高まった場合には、早めの避難が必要です。

水蒸気爆発（すいじょうきばくはつ）溶岩流が崖や湖に流入すると、小規模な水蒸気爆発が起こることがあります。この場合、爆発の発生場所近くでは噴石や爆風の危険があるので注意が必要です。

空振（くうしん）空振は、噴火に伴う空気の振動が伝わる現象です。噴火があれば、山麓周辺では、折強い空振を受ける可能性があり、連続的に窓ガラスなどが震動したり場合によっては割れることもありますので注意しましょう。

土石流（どせきりゅう）山の斜面に火山灰が厚く積もると、雨で流れて土石流となります。特に厚さ10cm以上積もる地域では、何回も土石流が起こることがあります。人が走るより速く流れるので、降雨時は注意が必要です。

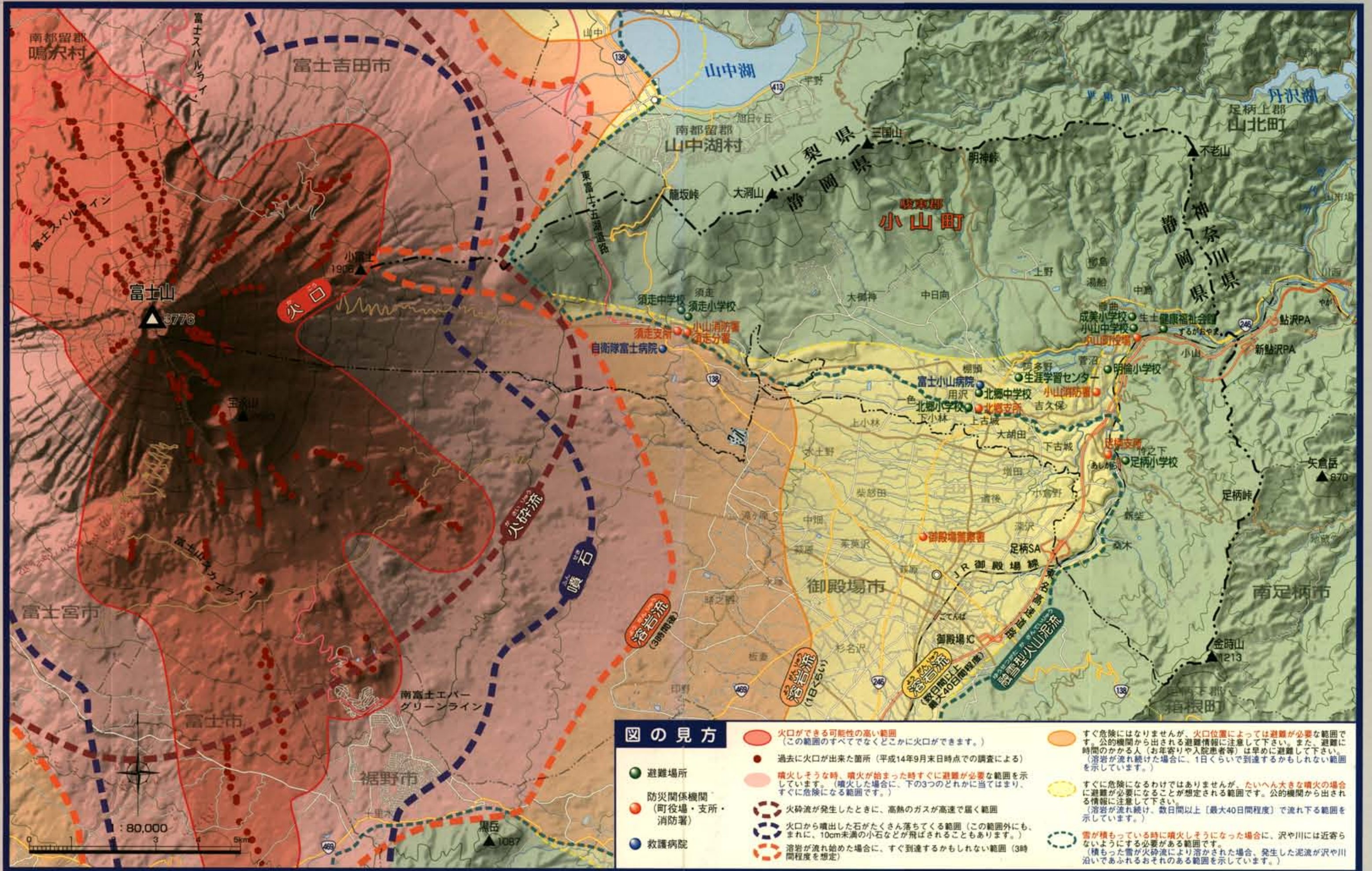
洪水氾らん（こうずいはらん）川の土手に火山灰がたふさく積もると、下流に流れてきて川底になるので、洪水が起きやすくなる場合があります。川沿いでは注意が必要です。

企画・発行：小山町/資料提供：富士山火山防災協議会 制作：（株）中央ジオマックス



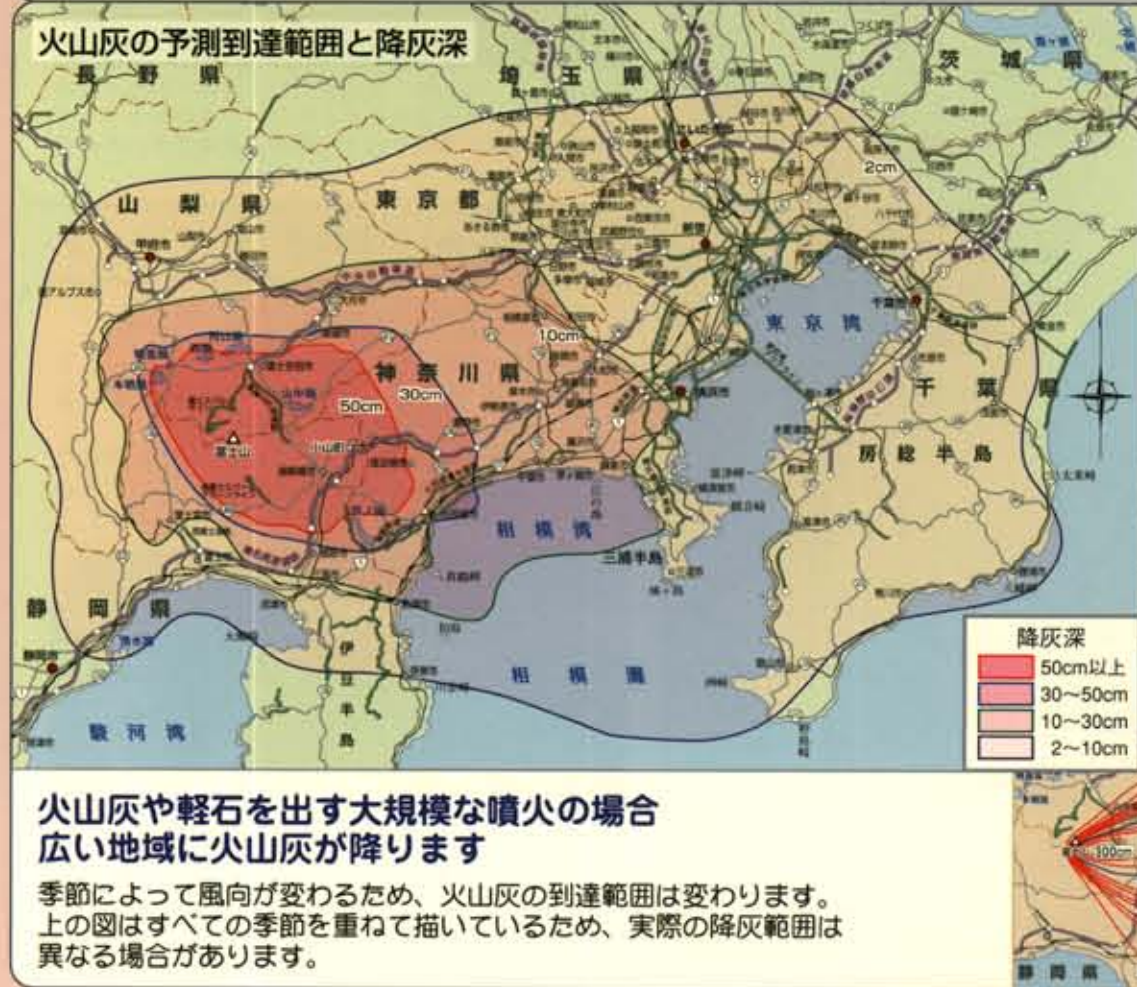
# 小山町富士山火山防災マップ ～溶岩流・噴石・火砕流・融雪型火山泥流～

この図は仮に富士山が噴出した場合に、溶岩流、噴石、火砕流などの影響が及ぶと考えられる範囲を全て重ねて描いたものです。全ての方角に同時に発生することを意味するものではありません。また、実際の噴火活動時には、このマップに示した範囲外に影響が及ぶ可能性もあります。



この地図の作成に当たっては、国土院の承認を得て、同院発行の20万分の1地形図、5万分の1地形図及び数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号 平17総使、第750号)

## 降灰マップ



### 降灰があったら…

- 灰を吸わないようにするためマスクやゴーグルを着用しましょう。
- 富士山の近くでは火山灰だけでなく小石が降ってくる可能性があるため、やむを得ず外に出る時はヘルメットや防災ずきんをかぶりましょう。
- 家は窓を閉めて建物を密閉します。木造家屋では屋根に30cm以上の火山灰が積もると、屋根が壊れたり建物に倒れたりすることがあります。特に雨が降ると火山灰が重くなるので注意しましょう。
- 車で走ると、灰を巻き上げて視界が悪くなったりスリップしやすくなります。また、雨が降っているとワイパーが使えず危険です。高速道路は、通行不能となる可能性があります。JRなど鉄道は、少量の降灰でも運行が困難になる可能性があります。

### 宝永噴火(1707)時の実績の降灰分布



## 土石流・火山泥流マップ



## 気象庁が発表する火山情報

**緊急火山情報**…生命、身体に関わる火山活動が発生した場合、あるいはその恐れがある場合に随時発表されます。市町村の指示に従い速やかに避難範囲からの避難が必要です。

**臨時火山情報**…火山活動に異常が発生し、注意が必要となる場合に随時発表されます。登山は自粛もしくは中止する必要があります。また噴火の可能性が高まったとされる情報が発表された場合は観光の取りやめや一部の方は避難が必要となります。

**火山観測情報**…火山活動に変化があった場合、あるいは緊急火山情報、臨時火山情報を補う場合などに発表されます。特段の対応は要りませんが、火山活動の状況を理解し、その後発表される火山情報に注意する必要があります。

## 避難する場合は以下に注意しましょう

- 忘れてませんか？
- 1 戸締り、電気、ガスの元栓を確認しましょう。
  - 2 貴重品は忘れずに持ち参りましょう。
  - 3 非常持ち出し品を確認しましょう。
  - 4 外出中の家族のために、避難先を書いたメモを残しましょう。
- 避難する場合は…
- 1 町役場や消防団などの指示に従い、落ちついて行動しましょう。
  - 2 お年寄り、赤ちゃんのいる人、体の不自由な人、外国人などの避難を助けてください。
  - 3 小石が降ってくる可能性があるためヘルメットなどで頭を守りましょう。また灰を吸い込まないようにマスクやゴーグルをつけましょう。
  - 4 くぼ地には有毒ガスがたまりやすいため、近づかないようにしましょう。
- 避難場所では…
- 1 人数を確認し、逃げ遅れた人がいないか確認しましょう。
  - 2 お互いに助け合ひましょう。
  - 3 ラジオやテレビ、防災無線などの情報に注意しましょう。



## 家族に安否を知らせるために…

**災害用伝言ダイヤル**…大規模な災害が発生した時に被災地域内やその他の地域の方々と「声の伝言板」の役割を果たすシステムです。「171」をダイヤル後、ガイダンスに従ってご利用下さい。

**留守の場合** 171 [NTTガイダンス]→1 [NTTガイダンス]→(市外局番)被災者の電話番号→録音

**再生の場合** 171 [NTTガイダンス]→2 [NTTガイダンス]→(市外局番)被災者の電話番号→再生

**災害用伝言板(携帯電話「iモード」)**…携帯電話を所有している人が被災地にいる場合に、携帯電話(「iモード」端末)から伝言板に自分の安否情報を登録し、離れた場所にいる家族や知人など、携帯電話番号を知っている人が携帯電話やインターネットを通じて安否情報を確認できるシステムです。

### 避難施設・救護病院と連絡先

避難施設名	電話番号
小山中学校	0550-76-0154
成美小学校	0550-76-0063
明倫小学校	0550-76-0064
足柄小学校	0550-76-0596
北郷中学校	0550-78-0514
北郷小学校	0550-78-0520
須走中学校	0550-75-2004
須走小学校	0550-75-2730
健康福祉会館	0550-76-6866
生涯学習センター	0550-76-5700
救護病院名	電話番号
富士小山病院	0550-78-1200
自衛隊富士病院	0550-75-2311

### 防災機関と連絡先

防災機関名	電話番号
小山町役場(代表)	0550-76-1111
小山町役場生活環境課	0550-76-6111
小山消防署	0550-76-0119
小山消防署須走分署	0550-75-2001
御殿場警察署	0550-84-0110

本ハザードマップに関する問合せ先  
小山町役場生活環境課  
TEL 0550-76-6111  
FAX 0550-76-3050